

平成15年度スジアオノリ養殖概況

團 昭紀

平成15年度漁期の概況は、吉野川では例年どおり10月上旬から天然採苗が開始された。10月下旬と11月下旬に降雨による増水で養殖漁場の塩分は低下したが、塩分の回復は速やかであり生産には大きな影響はなかった。

平成15年度漁期の共販数量約80トン（前年比109%）、3億円（前年比93%）であった。

1 スジアオノリ養殖技術講習会の開催

平成15年スジアオノリ養殖漁期の直前である8月27日に県漁連において県下スジアオノリ養殖業者約30人に技術講習会をおこなった。前年度に実施した「種類・産地の異なるアオノリの吉野川での養殖試験」（平成14年度水産研究所事業報告書102～103項参照）を中心に説明をおこなった。質疑応答では、種網の冷蔵保存方法などの基本的な技術についての質問が多く、今後更に新技術の普及の必要性が重要である内容であった。

2 人工採苗用の母藻の生産と配布

長原、川内、応神、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株（Y1124）であった。

3 平成15年度漁期の共販結果

図1に平成14年度、15年度の徳島県漁連共販数量を示した。15年度は漁期前、漁期中に降雨による漁場の低塩分化で生産の減少が危ぶまれたが、人工採苗などの活用により結果として過去最高の生産量となった。図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。生産量が安定してきた平成11年度以降は単価の低下が続き、本年度は平均単価が4千円を下回った。

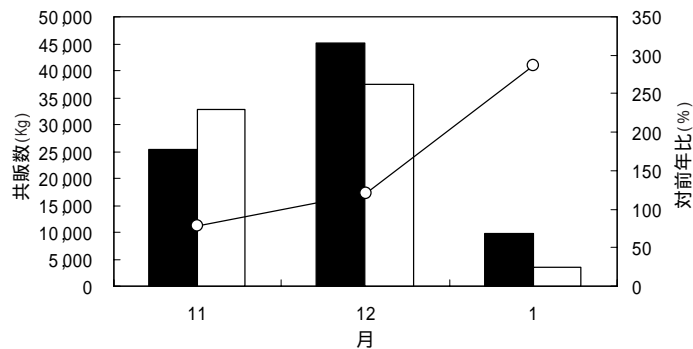


図1 月別共販数量の推移。 ，平成15年度； ，平成14年度； ，対前年比

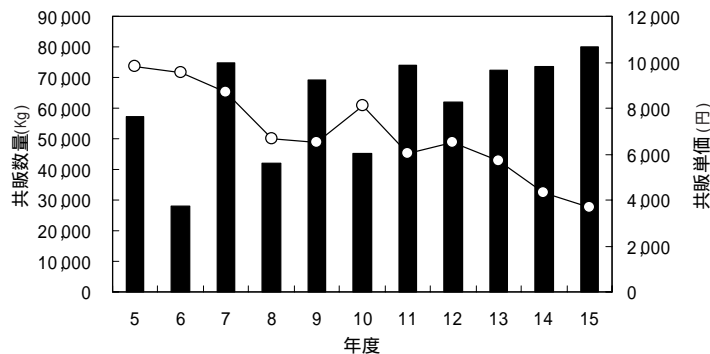


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，共販単価